

日時：令和2年7月16日（木）

場所：六郷高等学校会議室

1 全体会 I

(1) 会長挨拶

5月開催予定だった本会議もコロナウイルス感染拡大防止により本日まで開催がずれ込んだことをお詫びしたい。さて、2つお話ししたい。1つは、昨年度最終の本会議で、「思うほど十分にできなかった」とお話しした。学校が地域との交流準備ができたにもかかわらず、民間サイドの準備不足と不慣れさが伴い、なかなかスムーズに交流できなかった。その一助役として六高サポーターが十分機能してコミュニティスクール活動を進めたい。今月26日に正式に組織として立ち上がった上で、学校をしっかりサポートしていきたい。

2つ目は、普通科の学科再編に関してである。2022年度に学際融合学科と地域探求学科を仮称として再編される方向のようだが、本校としても先を見据えてできることを着実にできればと考えている。

最後に、地域と学校がさらに交流を深めることで活動を盛り上げていくためにも、皆様の力をお借りして進めていきたい。

(2) 委員委嘱・出席者紹介について

委嘱状を只今お渡しした委員の皆様方には、今年度はいろいろとお力添えをいただきたい（欠席者には後日会議録とともに郵送予定）。

(3) 校長挨拶

今年度は55名の新入生を迎え、全校生徒数は現在216名である。コロナウイルス感染拡大防止により、例年と違う形で学校が動いている。入学式や福祉科宣誓式において御来賓の御参加を見送った中で行った。今後、多くの御来賓をお招きしながら学校行事が持てることを期待したい。なお、残念ではあるが、今年度の学校祭は中止とさせていただいた。

部活動に関連して、中止となった6月の高校総体に代わる大会が現在行われている。自転車競技部が報道でもあったように女子選手においては大会記録も出るなど好成績を収めることができた。野球部は横手清陵学院高校を相手に少人数ながら粘り強い闘いぶりを見せながら、0-2で惜敗した。

学業面では、コロナウイルス感染予防を図りながら通常授業を行っている。本校は臨時休校期間が9日であったため、夏休みの短縮は予定にない。行事の取りやめにより授業日数（時数）が確保されるため、例年通りの授業実施が可能だとみている。ただ、福祉科の施設実習がなくなったため、現在は校内での実習に代替している。国家試験の受験資格も心配されたが、厚生労働省による特例措置でその心配はなくなった。

本日はいろいろと御意見をいただきながら進めたいと思うので、よろしく御協力をお願いしたい。

(4) 協議

①学校運営方針について

教育目標については、昨年度よりもさらに具体的な表現に変更した。この学校運営協議会精度を踏まえても地域との交わりを意識した文言にしている。目指す生徒像は笹竹の精神がベースになっているので、ぜひこのまま踏襲したい。重点目標は言葉をコンパクトにしてまとめた。その中で特に重視したいのは学力向上である。生徒の自己実現につなげていくためにも、これまで以上に学校として注力していきたい。

なお、本協議会の総意を秋田県教育委員会に上申することもできる。具体的には学校運営に関することや教職員の任用に関する意見が含まれる。この意味を踏まえても委員各位には御忌憚のない御意見を頂戴したい。

②グランドデザインと方向性について

教育目標を踏まえ、重点目標や学校としての方向性を考えると「キャリア教育の推進と生徒主体の学習活動の充実」が1つの重要なテーマになってくる。地域と双方向的なやりとりをしながら、地域とともにある学校として教育活動をさらに充実させていくためにも本協議会の果たす役割は大きいと考える。その上で地域貢献、学習、キャリア教育の3つの作業部会がさらに機能していくためにも、幅広い御意見を頂戴したい。

昨年度のコミュニティスクールとして、本校の教育活動に際して多大なる御理解と御協力をいただいたおかげで無事に実施することができた。この場を借りて御礼を申し上げたい。なお、今年度の計画について、秋口以降は予定通り実施して参りたい。但し、コロナウイルス感染拡大によって今後の予定が急変することを含んでいただきながらさらなる御協力をお願いしたい。

また、情報発信において、引き続き町内にコミュニティ通信ファイルを置かせていただくのと同時に本校のホームページに新しい話題を速やかに公開していきたい。

③質疑応答

福田 世喜 委員より

1年生で総合的な探求の時間を活用して地域学習が行われているが、今後農業体験などにとって代わっていくのか？

芦原 康一 教諭より

今年度はコロナウイルス感染拡大防止の観点で取り止めた。いずれ地域との関わりという要素を踏まえても地域学習は有効と考える。しかし、まだ試行錯誤段階であるため、今後は積極的に関係各位に相談しながら地域学習活動を定着させていきたい。

檜岡 明日美 教諭より

来年以降のコース学習を踏まえ、今年度できることとして実施している。美郷町以外の出身生徒がいる現状を踏まえると実践する価値はあると考える。6月に地域学習のフィールドワークや講演会、7月と8月にまとめの作業と発表、さらには9月に町内各施設の見学といった予定を考えている。これまでの学習活動のダイジェストを本校ホームページで公開したいと思う。

佐藤 智和 校長より

職員に対してスクラップ・アンド・ビルドで既存の事業を検証するようにお願いしている。これによって効果的な教育活動を模索し、生徒にしっかりと還元していきたい。

佐藤 良一 会長より

教育目標など非常に分かりやすくなった。何かアクションを起こす際に立ち返るべき所になっている。

福田 世喜 委員より

教育目標や重点目標の変更に際して、「地域とともに」という要素も踏まえるとコミュニティスクールとの整合性がとれている。学校にとって大きな柱になる目標の変更を行ったことは勇気ある決断と言える。だからこそ、今後はこれまで以上にコミュニティスクールとして様々なことを実践していきたい。

齊藤 伸英 委員より

本校のホームページによる情報発信はある程度成果が上がっていると思う。ところで本協議会の目的の1つとして、生徒に還元するためにも本校職員が校長をリーダーにして同じ方向に歩くことが大切だと思うが、この点についてどう考えているのか。また、本校職員の考えが今まで以上に生かせるというが、この点で負担増に感じることはあるのだろうか。

佐藤 智和 校長より

本協議会は元々、地域に相談しながら、地域の要望を受ける1つの場であったと考える。その上で双方向により意見を交わすためにも専門部会での御議論をよろしく願いたい。

岩田 稔 委員より

コミュニティスクールの活性化を図る上では多くの意見が出される。すると学校と地域を結びつけていくコーディネーターの役割がとても大きい。次につなげていくことで本当の動きにつながっていくものである。それをどこに相談したらいいのだろうか。

佐藤 良一 会長より

六高サポーターの立ち上げまでは会長が対応していきたい。ゲストティーチャーの人材探し、部活動やデザインなど、学校の施設を使ってできるのであれば積極的に行いたい。SNSやホームページ、学校行事の補助など何でもサポートしたい。人材は卒業生のみならず、美郷町内外問わず、幅広く人材を募りたい。

福田 世喜 委員より

本協議会が動いていくためにも本校職員の声積極的に出していただきたい。その上で六高サポーターが関わっていくのが良いと考える。組織的に動かないと負担だけが増すかもしれない。そこで3つの専門部会で各々窓口になる職員と六高サポーターから3人が月1回ペースで集まって話し合いながら進めていくことができればいいのではないだろうか。

鈴木 正洋 委員より

コミュニティ通信の発行体制とデリバリー体制はどうなっているか。

芦原 康一 教諭

今年度より学校運営協議会が総務部の傘下になったため、総務部主体で発行をしている。デリバリー体制については、昨年に引き続いて町内にコミュニティ通信ファイルを置かせていただき、発行の度に差し替えている。そして町内に回覧いただけるように教育委員会と役場の御協力をいただいて実施している。

鈴木 正洋 委員

回覧板が家々を回るのは毎月1日と15日と決まっている。それ以外のタイミングでの回覧は町側の負担になり得る。また、回覧板だと気持ちやや急いでしまい、折角回覧されてきてもコミュニティ通信を熟読することもできない。だからこそデリバリー体制を再考する必要があるのではないだろうか。

岩田 稔 委員

3年前から役場の総務課に相談しながら1日と15日を回覧の期日にし、その10日前には役場に持っていきようにこれまでやってきた。その上で各町内に回覧されていくので問題は無いと思っていた。

齊藤 伸英 委員

大勢の人に届けるための方法を考えるべきだろう。コストネットや人的ネットで負担が大きくなるようにしていくべきである。その1つとして本校のホームページを積極的に活用していくことがあげられる。いずれ今年度は周知方法のあり方を改めて考える必要があるだろう。

<質疑応答終了後、学校運営方針を承認。>

(5) 専門部会での話し合い

(6) 専門部会からの報告

①ボランティア等の地域貢献活動

今年度の目標は昨年度と同じ「地域ボランティアや体験活動の推進」とするが、特に防災に関する活動のあり方を追求していきたい。場合によっては自衛隊などの外部から講師を招いて災害について考える機会を確保することも考えられる。また、手紙を通した奉仕活動や美郷の旬ごはんのPRを展開したい。

<施策>

- ア) 防災に関する地域との活動のあり方
- イ) 地域ボランティアの推進

②広く豊かな学習活動

目標としては「地域とともに魅力ある授業を目指して」とする。特に地域探求活動を通して問題解決能力を高めていきたい。

<施策>

- ア) 地域人材を活用した意図的、計画的な学習活動の推進
- イ) 総合的な探求の時間における系統的学習活動の実施
- ウ) 福祉科の施設実習による質の高い体験学習

③キャリア教育を推進する活動

目標は「進路意識を高め、主体的、積極的に自己実現を図ることができる。」とした。昨年までの「就職に向けた」というフレーズがとても狭義に感じられたためである。進学希望者や進路未定者も含め、自分で考え、決断し実践できる人材の育成につなげたいと考える。

<施策>

- ア) 町内の企業による就職希望者への面接指導
- イ) 同窓生をはじめとした地域の幅広い方々より生き方をより広く学ぶ

(7) その他

(8) 副会長挨拶

新校長の下、本校職員がこのコミュニティスクール活動を意欲的に取り組んでいる印象を持っている。昨年度は福祉科における国家試験合格率が100%達成という全国に誇ることができる成果も見られた。普通科においても1年生における地域探求学習をはじめ、昨年度はビジネスコースの生徒による街づくり地域活性化に関するプレゼンテーションなどが行われた。普通科としての魅力を引き続き発信していただきたい。その上で生徒が生き生きと成長していけるように学校と地域が互いに協力していかなければならない。普通科の再編については、学科の中味を魅力的にしたSSH（スーパーサイエンスハイスクール）が1つの例である。地域探求科という仮称ではあるが、コミュニティスクール活動を通して地域と連携しながら本校としての特質を発揮していくことができればよい。そのためにも今後はコーディネーターの配置が求められる。本校として、この仮称を使っていくのか、引いては学級源を跳ね返すためにも学校として頑張っている姿を地域にPRしていくべきである。新しい学校を目指して頑張っているPRはとても大切である。体験入学実施から12月の出願まで時間はまだあるので、それまでどうするのか、できることが何かを考えるべきである。そのためにも生徒の姿が最重要である。高校生活の大切な部分である部活動の加入率が3割と低調だが、再加入期間を設けてみてはいかがだろうか。今後も本校の様々な頑張りに期待したい。